

第4回  
青梅市総合長期計画審議会  
会議録（概要版）

日 時 令和4年1月28日（金）  
開催方法 書面会議

## 第4回青梅市総合長期計画審議会会議録

日 時 令和4年1月28日(金)

開催方法 書面会議

会議資料の基本構想骨子案について、意見を事務局へ提出する

### 配付資料

資料1 第7次青梅市総合長期計画策定にかかるアンケート調査集計結果の概要

資料2 オンライン生徒会交流会報告書

資料3 青梅市の未来予想

資料4 「10年後の青梅市」をテーマとした青梅市総合長期計画審議会委員意見

資料5 基本構想骨子(案)

参考資料第5次・第6次青梅市総合長期計画基本構想(抜粋)

.....

委 員	和 田	孝	委 員	望 月	友美子	委 員
	杉 田	真 衣	委 員	中 島	由 美	委 員
	中 村	洋 介	委 員	三 竹	直 哉	委 員
	宇津木	憲一郎	委 員	鬼 塚	睦 子	委 員
	栗 原	久美子	委 員	宮 口	泉	委 員
	伊 藤	武 夫	委 員	沼 倉	智 弓	委 員
	松 井	勉	委 員	儘 田	菜つ美	委 員

## 1 委員提出意見

### 【委員】

#### ○資料5

- ・まちの将来像について（下記の如く変更案として提出する）

「東京の公園と位置づけられたことに、誇りを持つまち青梅」

小池都知事は、青梅・奥多摩を東京の公園と位置付けております。この都知事の深い思いを前面に出して青梅市をアピールしていきたい。

- ・基本理念について

- ・提出された文言で良いと思います。

- ・まちづくりの基本方向について

- ・タイトルを、具体的に表現（記す）することで今後の改善すべきことが解りやすいのではないのでしょうか。

まちづくりの基本方向と題名があるので各項の「まち」を無くす。過去の長計から変えたいと思います。

- 1、健康・医療・福祉の充実
- 2、安全な都市基盤と危機管理
- 3、子育て・若者・教育の充実
- 4、健全な行財政運営の推進
- 5、伝統・文化と観光
- 6、地域経済と産業
- 7、住民自治と共生
- 8、環境・エネルギー

#### ○資料1について

- ・市民アンケートの回収率 37.2%は、回答内容に信頼性が高いと思います。

事業者アンケートの回答が少ないのは残念です。依頼方法の検討要か。

市民アンケートで、若い年齢の回答が少なく60歳以上が50%と回答率が高いことは、無職・勤めてない回答者の割合が高かったためと思われる。

また、若者の回答が多ければ都内勤務が多くなったと思われる。

青梅市総合長期計画の認知度が低い。その反面、市政・まちづくりの関心が高い傾向であるにもかかわらず市政への参加が少ない。掘り下げて原因を探る必要があるのではないか。10年後の青梅市のイメージとして自然豊かな中で、保険・医療・福祉が整ったまち、公共交通の便が良いまちで高齢者は暮らしたいと願っている。このような希望がかなえられる長計としたいものである。

転出者アンケート調査では、職住接近、学校が近い、交通の便が良い等を上げており、企業誘致・公共交通の検討・子育て環境等に力を入れることと、更に、青梅市の魅力を増していく必要

があると考える。

#### ○資料2について

・7つのテーマに分かれており、それぞれの発表内容は私達大人の考えている課題と合致する点が多く中学生の青梅市の将来に対する関心の高さに驚くと同時にこの世代の将来に期待したい。

#### ○資料3について

・まさに青梅市においても少子高齢化。20年後、65歳以上の高齢者40%、生産者人口50%、14歳以下8,7%。50%の現役世代が多くの高齢者を支える構造になる。

従って、行財政、公共施設、医療・福祉、教育等々、多方面から将来に向けてメスを入れていかなければならない、既に青梅市においては公共施設の統廃合等の検討が進み一部実行されている。今後、デジタル化等も踏まえて更に加速していくべきと考えます。

#### ○資料4について

・私達が生きている現代において官・民が一番力を入れなければいけないと思える課題は、

①DX（デジタルトランスフォーメーション）

②GX（グリーントランスフォーメーション）

であると考える。日本政府は、今後5年間の研究開発投資の目標として、約30兆円。官民合わせた総投資は、約120兆円と言われている。投資の内容は、①科学技術 ②経済安全保障 ③デジタル ④気候変動等である。

そして、「モノから人」へ投資を行ってイノベーションを起こし付加価値の高い製品、サービスを生み出そうとしている。そこには、新たなスタートアップ企業が沢山出てくるものと思われる。

また、デジタル田園都市スーパーハイウェイ構想である。3年程度で海底ケーブルを日本国を周回し高速大容量のデジタルサービスを国民および行政間にデータの利活用を実現する計画である。

その為には、デジタル人材を育てることが必須である。

DXに取り組むために、ある外資系企業の30代の社員が言っている。

①人材（社員・行政職員）の教育

②上層部の入替（変革のスピードに物足りなさがあるため。）

③若手を積極的に登用する。

情報格差は、年代の上下に逆転している。変化の激しい時代には、若者の能力を最大限有効に活用していくことが必要と考える。

審議委員としての新しい意見

#### 1) 空き家対策

既に青梅市として対応しているが、実際には、市内に高齢の両親が無くなって空き家になっている。息子・娘さんは家を出て住んでいない等々が大半の理由で空き家が沢山存在している。

空き家になる前に高齢者の将来方向を事前に申し出いただきデータベースを作成し全体のシステム化を図ったらと考えます。

外国人さんが梅郷地区は非常に多い。住みやすいと言っています。いろいろな面での交流が必要。

下記は、第四支会の一年間の人口・世帯数の推移です。人口は減少開いていますが、世帯数は増加しています。建売の増加によるものと思います。

#### 第四支会（梅郷地区）人口、世帯

	2020年12月1日	2021年12月1日	
人口	10,186人	10,092人	-94人
男	5,076人	5,011人	-65人
女	5,110人	5,081人	-29人
世帯数	4,680世帯	4,712人	+32世帯

#### 2) 11カ所の市民センターのあり方

- ・人口減少によるセンター数、職員数の検討。
- ・高齢者から見れば、近くに市民センターを必要とする。
- ・今後のデジタル化による行政の改革が行われるのは必須。
- ・過去から引きずっている多量の雑務。コロナ禍の中で改めて課題が見えたと思われる。
- ・従って、センターの統廃合、職員の減少の検討要。

#### 3) カーボンニュートラル（脱炭素）

- ・太陽光発電（液晶パネル）一般家庭に付ける費用に補助金を市が出す。
- ・市の施設全般に液晶パネルを取付ける。（市民センター、市役所、給食センター）
- ・山があり、沢が沢山ある。沢の水を利用した小規模水力発電。

#### 4) スタートUP企業の誘致

- ・明星大学青梅校 平成27年3月以降使用していない。

建物等は維持管理されている。70haの広大な敷地と建物の管理は維持されているが、管理に相当の金額掛かる。

総務企画委員会が今後1年かけて検討する。

スタートUP企業を誘致し沢山ある教室等を使用させる。大きく伸びる企業に対して学校の空き地に工場を誘致する。青梅市は不動産業も兼務する。

#### 5) DXによる行政改革において、職員の削減。余剰の職員で商売を考える。（国鉄が民営化されてJRになってからの改革を想定する）

防災備蓄用品、食品とかの販売。

#### 6) 吉野街道拡幅及び歩道の拡幅の遅れ 昭和38年からの計画。都道であるが、今後は青梅市の行政が地権者に今以上深入りし早急に対応する。（五日市街道の例を参考にする）

### 【委員】

#### 1. まちの将来像について

資料1のアンケート調査によりますと、市政やまちづくりへの関心が高いにもかかわらず「青

梅市総合長期計画」の認知度は残念ながら低いものとなっています。そこで、計画の骨子であるまちの将来像の認知度を少しでも向上させるために、「東京なのに」の「なのに」の部分に具体的かつ誰もが覚えやすくするための工夫をしてみたいはいかがでしょうか。例えば、「なのに」のそれぞれの文字を使って青梅らしさを表現するのも面白いと思います。

- 【案】「東京なのに」懐かしさ、のどかさ、人間味があふれるまち青梅  
文化  な 懐かしさを感じる昭和レトロなまち（歴史と文化のまち）  
自然  の のどかな自然と共生するまち  
ひと  に 人間味あふれる人が暮らすまち

## 2. 基本理念について

□基本理念は「まちの将来像」と明確にリンクさせた方が計画基本構想としての一貫性が生まれるのではないのでしょうか。仮に「まちの将来像」を上記案とした場合には、例えば、3つの視点に合わせた順番に見直すだけでも繋がりができると思います。

文化の視点⇒「明るい未来を育む、文化と創造のまち」

自然の視点⇒「豊かな自然と都市機能が調和した持続可能なまち」

ひとの視点⇒「多様性を認め合い、みんなが主役で輝けるまち」

□基本理念に掲げる「豊かな自然と都市機能が調和した持続可能なまち」は青梅市のこれからの10年において重要な項目だと思います。それはなぜかと言いますと、世界の目が「地球を健康体に戻さなければならない」という方向に向いているからです。新型コロナやデング熱などの疫病は気候変動と問題は同根で、人間界と自然界のかかわり方や調和が乱れたことに起因していると言われていています。青梅市は自然を身近に感じ、自然と共生して成長してきました。このような環境で成長してきた青梅だからこそ脱炭素や循環経済等に積極的に取り組み、この分野でリーダーシップを発揮すべきだと考えます。この基本理念には、そのような意味を含め、基本計画の各論の中で具体的に触れていただきたいと思います。

## 3. まちづくりの基本方向について

□資料4は委員の皆さんの意見を前回の「第6次計画」のまちづくり基本方向に落とし込んだものですが、項目を跨いで重複する部分が多くあり整理する余地があります。したがって、今回のまちづくりの基本方向は、前回の「第6次計画」の10項目よりも減らした7項目として良いと考えます。

□まちづくりの基本方向の各項目に横串を通すように、共通する視点を入れ込む発想は素晴らしいと思います。ぜひ、各項目を踏まえて具体的な施策に落とし込めるようお願いします。

□資料1のアンケート調査の「施策の満足度・重要度」の質問を見ますと、「防災」は施策の重要度・満足度ともに高い分野となっています。また、「事業を行うことの強み・弱み」の質問でも「自然災害が少ない」ことが最大の強みと位置付けられています。この青梅市の強みをさらに伸ばすべきだと考えますが、その防災を担う人手は人口減少に伴って減少する傾向

にあります。この人手不足を補う手段として「防災・減災 ICT（情報通信技術）」を活かし、青梅市の強みを伸ばすことが必要だと思えます。

#### 4. その他

□長期計画の基本構想骨子である「まちの将来像」「基本理念」「まちづくりの基本方向」などについては、それぞれの位置づけや関係性をわかりやすく示すために資料5のような計画全体図を盛り込む方が良いと考えます。

#### 【委員】

##### ○資料1について

P8,9のデータは何が違うのですか？（青とピンク）

タイトルがないのでわからず、ご教示ください。

##### ○資料2について

せっかくの若い方の意見や要望なのでぜひ計画に取り入れていってほしいと思います。

##### ○資料3について

特になし

##### ○資料4について

特になし

##### ○資料5について

総合長期計画を作成するにあたり、「まちの将来像」が大前提にあり、この「まちの将来像」を実現するための基本理念があり、基本理念を具体化させたものが「まちづくりの基本方向」という位置づけになるかと理解しています。

##### ◎まちの将来像

シンプルに「みんなが健やかに笑顔でくらすまち青梅」が良いと思います。どこにでもあるような無難なものかもしれませんがわかりやすい。

タイトルの下に書かれている3つの文章は何を表しているのでしょうか。

- ・青梅市が持つ唯一無二の強み？
- ・青梅市の持ち味？
- ・青梅市のコンセプトであることのわかりやすさ？

その横に書かれている文章は何を表しているのでしょうか。

同じようなことがバラバラに書かれていて何を言いたいのがわからない。

##### ◎基本理念

可もなく不可もなく、無難でどこにでもありそうな理念だと感じました。

具体案はこれから検討されるのですが、流行りの言葉を並べているように見えますし、失礼ながらいろいろ盛り込みすぎな感が否めません。

##### ◎まちづくりの基本方向

この図から明確な方向性を読み取れる方がどのくらいいらっしゃるのか気になります。見慣れた

方はわかりやすいのかもしれませんが。

#### ◎基本姿勢

これはどういった位置づけになるのかご教示いただけたらと思います。

#### ○その他

第3回で発言がする時間がなかったのでここで記させていただきます。

企業を経営する者として労働人口の減少をいかに解決するか、産業をどのように発展させるかをもう少し掘り下げていただきたい。青梅には古くからある産業もありますし、工業団地や青梅 IC 周辺の開発も進められて？います。せつかくの事業者アンケート結果を反映していただきたいと思っています。

余談になりますが、今の日本の産業構造では中小企業の負担が大きく、事業をどう継続していくかが今後ますます課題になっていくと考えます。青梅市だけでなく日本全体に言えることだと思いますが、日本の産業を支える中小企業を支援する体制を強化することを今以上に盛り込んでいただきたいと思っています。こういったところに力を入れる自治体であれば青梅で事業をしたいと思われるでしょうし結果として産業が発展し、人が住み、活気ある街になるのではないかと考えます。

またこれからの10年のための長期計画なので今の若い方たちの意見もふんだんに取り入れるべきと考えます。せつかく中学生の交流会資料があるので、市民アンケートだけでなくこれからを担う若い方々（中学生だけでなく高校生や大学生など）の声をぜひとも取り入れてほしいと思います。彼らが10年後を担っているのですから。併せて、すでに取り組みされているかもしれませんが、障がいを持つ方や介護を必要とする方、介護する方、ひとり親世帯などの幅広い声を聞いていただきたいです。こういうところから「みんな」につながるのだと思います。大切なのはどんなフレーズにするかよりもいかに実現させていくかだと思います。

#### 【委員】

#### ○資料5

- ・まちの将来像について

豊かな自然の恵みに抱かれた「ここは東京」

健やかに笑顔で暮らせるまち青梅

- ・ここは主張したい思いで「ここは東京」としてみました。「東京なのに」も捨てがたいですが。
- ・暮らせるー思いとしては『自分らしく暮らせるまち青梅』

- ・基本理念について

- ・多様性を認め合いー様々な人が共に暮らし

多様性を認めることを前提に「インクルーシブな交流を創出し、様々な人が共に暮らし輝けるまち」「誰もが輝けるまち」

- ・明るい未来を育むー人と文化を育む、明るい未来を創造するまち

※人と文化を育てるまち～人が育つまち～

- ・3つ目の基本理念賛成です。



- ・まちづくりの基本方向について
- ・保健・医療が充実したまち－健康長寿・予防医療が充実したまち
- ・安全で快適に住み続けられるまち－DXの力を活用した災害に強いまち
- ・遊び・学び・育むまち－遊び・学びそして人を育むまち
- ・活気にあふれたにぎわいのあるまち－活気と活躍の場があるまち

※文化と観光を文言にした基本方向案が入らないでしょうか？うまく文章にならないのですが。

- ・スポーツ・文化・観光等が文言に入らないかと考えました。

#### ○資料1について

・回答者の属性－若もの層の回答数が少ないのが気になります。30歳代までのアンケートを個別にすることはできないのでしょうか？

・「公共交通」「雇用」「財政運営」については、骨子案に盛り込んでいきたいです。高齢者の交通事故の場面に最近遭遇したのですが、「高齢で一人暮らし、足がないので車に頼るしかなかった」とおっしゃっていました。交通インフラの充実（特に梅郷、沢井、成木、小曾木）急務であることを感じました。

#### ○資料2について

・生徒からの意見は、とても前向きで、感想からも継続の意欲を感じられました。中学生は、この後進学で他の地域に飛び出していきます。その時に青梅の良さを確認してくれていることは大変うれしいことと思います。

・学校関係者、生徒共に改善が必要との意見がありますが、具体的に聞き取り、次回に繋げていけたらよいと考えます。

#### ○資料3について

・少子高齢化の中で、乳幼児期の子ども居場所である幼稚園、保育園と高齢者のデイサービス等が共生する居場所づくりが実現できたら良いと思いました。障がいのある方の居場所でも活用できればダイバーシティ青梅が実現できるのではないかと思います。そのための人材育成（人育て）が大きな課題となると思います。

#### ○資料4について

- ・福祉が充実したまち

※高齢者、障がい者そして外国人など誰もが安心・快適に暮らせるまちづくり－情報のバリアフリー、心のバリアフリーの推進

※心豊かに生きるため（生活するため）の共生社会－動物の適正な飼養について－青梅の駅近くを猫の街と観光スポットとしていることもあり、共生は人同士だけではないことも伝えたいと思いました。

- ・みんなが参画し協働するまち

※市民提案協働事業について－1年だけの協働ではなく、行政として持続した施策へとつなげるための行政窓口の設置を望みます。

・次世代を担う子供をみんなで育むまち

※コロナ禍小学生はじめ中高生の居場所が少なくなっています。特に中学生の居場所です。学校、家庭そして第三の居場所の必要性を感じます。不登校の社会的背景としてその大きな原因の一つが日本人の思春期が長くなったからと言われていています。その様な中、家庭に居場所をなくしている子供たちも多いと言われていています。

そして、第三の居場所は、それぞれの年代で必要な居場所となると思います。

### 【委員】

・資料2

生徒さんたちの感性が素晴らしいと思いました。特に、(6) 環境保全にある、「未来へつながる青梅の緑」という表現は素敵な響きがあると感じました。どこかに活かさないかなと思いました。

また、(7) の交流には「触れる」「ふれあう」というキーワードが現れているように感じました。

・2回続けて欠席になってしまいましたので、議事録は拝見しましたが、しっかりお話をフォローできているか自信がありませんが、農業・林業への言及がもう少しあってもよいかと印象をもちました。

特色ある農業・林業を試みている方々もいらっしゃるようなので、活かしていけたら楽しいと感じます。

・農業・林業に限らず、様々な分野にユニークな挑戦をしていたり、独特な知見や技術をお持ちの方や、会社、団体が、青梅のあちこちにいらっしゃる／ある気がします。そうした方々、会社、団体などの情報を広範に集めた、魅力的に一覧できるポータルサイトのようなものがあったらワクワクする、「あそぼうよ！青梅」につながる気がしました。

・個人的には、「あそぼうよ！青梅」という基本姿勢のフレーズは素敵だと思います。

・まちの将来像

東京のなかにあるのに・・・というアピールも効果的だと思います。さらに、青梅の中に、都会と山・川がある点を活かして、青梅は、青梅にいながらにして、2拠点・多拠点的生活を楽しめる、遊べる場所だというアピールもあり得るのかなと感じました。

また、関連して、新しい様々な「シェア」どんどん形作られている10年後の青梅もわくわくすると感じます。例えば、山の中の拠点を「所有」しなくても、「シェア版のダーチャ」のようなものを市民が利用できている様子が楽しそうです。

・委員提出資料

Facebookでも拝見しました。とても楽しそうな試みと思いました。

こうしたグループ向けに、私がファシリテーターをしているSDGsのカードゲームなどをするのも楽しいかもしれません。

・世界に目を向けて、世界とつながる、という視点や感覚がもっと育まれると心賑やかになる気がいたしました。特に、若い世代の皆さんが、青梅にいながらにして世界に触れて、世界につながる事ができる感覚を育てている

10年後になっていたらワクワクします。

・奥多摩との関係について

奥多摩とパイを奪い合うイメージではなく、共創関係を生み出していけたら楽しげです。都民のみなさんが、奥多摩で思う存分楽しんで青梅で一泊してリフレッシュして仕事に戻る、といった楽

しみ方が定番になっていったらとっても楽しめそうです。

## 【委員】

### ●まちの将来像

「東京なのに」という言葉にこだわっているのは青梅市の住民くらいで、それも全員ではないと思うが如何でしょう。特に若い人や他県の人に聞いてみても、ピンとこないという返事が返ってくる。

八王子市、奥多摩町、あきる野市、日の出町、桧原村なども東京だし、各市町村もそれなりに抱かれた大自然を生かした取り組みなどを独自で進めている。だが何処も「東京なのに」とは言っていない。

メディアで取り組みを紹介された時に「実はここも東京なんですよ」とアナウンスされたほうがよっぽどインパクトがあると思うし、改めてここは東京なんだと認知してもらえと思う。

しかし現在、東京のコロナウイルス感染者数は脅威的な数値でコロナウイルスの巣と言っても過言ではない。イメージとしては最低ではないかと危惧する。今後何年かかってどのように収束していくのか不明ですが、多分東京はかなり厳しい状況で推移しそうな気がする。そんな状況の中で敢えて「東京なのに」は如何かなと思う。

また、美しい山々や渓谷美は日本中どこにでもあるし、今やその町の観光の目玉にはならない。目玉にするためにはプラスアルファの独自の味付けが必要だと思う。

青梅市の美しい山々や渓谷美は昔からあったものだし、それこそ青梅マラソンも長い歴史のあるイベントだが、宝の持ち腐れのような様子。山に人はあまり来ないし、東京マラソンに押されて青梅マラソンも精彩を欠いている。また、昔から受け継がれてきたであろう伝統芸能やお祭りなどもなにかパツとしない。というのも、人は昔から粛々とやっていることに何の疑問も持たない事が多い。やり方も宣伝活動も変えることに抵抗があるのか、面倒くさいと思うのかよくわからないが、なにか相当なキッカケがないと変わっていかない。

変わる為には市や我々の力だけではなく外圧というか、「その道のプロ」といわれている会社や創作集団の協力を得て大きく変えていく必要があるのではないかな。

新しい発想で新しい取り組みをすることで初めて「青梅らしさ」「青梅ならではの」を創り上げていくことができると思う。そのような外部の人たちから見て青梅の強み、コンセプトワードは何かということを知りたいのもひとつの変革方法ではないか。

限られた予算や人員でいろいろな取り組みができるわけがないので、なにか一つでも項目を決めて取り組めば、そこで初めて青梅市が持つ唯一無二の強み、持ち味が生まれるのではないのでしょうか。市報を見ているとこの審議会に関連するような項目のサークル活動を行っておられるグループがあるようですが、私たちの審議会とどのような関連性を持って進めているのでしょうか？もし同調できるのであればその内容を審議会に反映させても良いのではと思います。

さらに、メディアの力を大いに利用すべきだと思う。世の中にアピールするにはテレビの力が役立つと思うし、それを見た青梅市民も大いに力づけられるでしょう。

## ●基本理念

三つの項目が掲げられているが、どれも当たり前だしどこの市町村でも考えていることではないでしょうか。送っていただいた資料を拝見させていただきましたが、どの分野も将来的に明るい展望は望めない感じですね。

基本理念には様々な取り組み事項が掲げられていますが、どれも優先順位が高い項目ばかりで本当に実現できるのか未知数。この中から出来そうなものをチョイスするのでしょうか。それともちよつとずつかじっていくのでしょうか？

国の政策と同調する必要もあるでしょうが、青梅市の現状を精査してどの分野がメインなのかを明確にして、それを基本理念にするべきではないかと思います。

あまり項目が多すぎても絵に描いた餅で終わりそうです。

添付資料の中のアンケートで将来望まれるのは「社会福祉」「高齢者対策」それとなんども出てくる「自然環境の整備・活用」の三つが目立ちます。

先の二つは現在の子供たちや若い世代の人たちにとって重くのしかかってくる言葉です。少子化や住民の流出を何とかしないと、十年後に高齢者となる我々(私はとっくに高齢者ですが)はちょっと辛い将来になってしまいます。

少子化や住民の流出を阻止するための政策が基本理念の一つになると思います。若い夫婦の共稼ぎ世帯も多いでしょうから、幼児や小さい子供を預けられて安心して働ける環境作り、つまり保育園や児童館、そして学校の優先的整備が求められます。また、これから社会に出る若い世代が働ける職場環境作り。近隣の企業の青梅市への誘致や、新たな職域の開発。今まで青梅市にない道の駅やそれに関連した企業の設立。手つかずの農地があるのなら農業レストラン開設もあるでしょうし、都内や近郊都市からの有名店舗の招へい等によって雇用促進を図ることも必要だと思います。

とにかく今の若い世代に負担を掛けないということが基本理念のベースだと思います。中学生の子供たちの交流会資料を読みましたが、体裁ばかり気にする大人たちよりよっぽど立派ですね。ちゃんと中学生目線で物事をよく見ているし、きちんと意見を述べることができている。こういう若い人たちが伸び伸び暮らせて、他の地域に流出しないような環境造りを私たちの一番の取り組み項目にすべきだと思います。

青梅の自然についてですが、豊かな自然と都市機能が調和するという意味がよくわかりません。どのような調和なのか。都市機能が自然の中にズカズカ入っていても共倒れだし、自然は自然で別個に大切に保護していくものだと思います。

青梅の森を保全するボランティア活動をしていますが、「蛭が暮らす街、未来へつながる青梅の森」というキャッチフレーズはなかなか良いと思います。アスレチックができる森やキャンプができる森、ウォーキングやハイキングができる森も良いとは思いますが、恵まれた自然をきれいにするのも汚くするのも人です。

自然を破壊することなく、人々の癒しの環境を造らせていただくという謙虚な気持ちが必要だと思います。整備のための伐採も必要ですが、廃材を利用した公共施設建築や

家具製作を進めて「青梅ブランド」を作っていくのも「青梅ならでは」を創造していく取り組みではないでしょうか。

市民が自然の中で癒しを求めたり、観光客を増やしたりするにはやはりプロの力が必要です。現在流行しているキャンプ、グランピング、ラフティングなど様々なアウトドア、インドアの遊びができるようそれなりの企業とコラボして創り上げ、市民が憩えることもできるし、観光客が宿泊し、そのリピーターを増やすことで青梅市のイメージを創り上げていく。時間と根気の必要な取り組みですが、「ナチュラルシティ青梅」みたいな感じの都市になってほしいと思います。

#### ●基本姿勢

「あそぼうよ！青梅」の発想も良いとは思いますが、なんとなく内容が中途半端な感じがする。今あるものを利用して認識をしてもらう方法も低予算で実施できるのでアリですが、とりあえず青梅市民対象みたいですが果たしてどのような方たちが参加されるのでしょうか？メインターゲットは？ ぷらっとフォームで話し合われた内容からの流れですか？ゆくゆくは市外、あるいは他県からの来訪者を増やすための最初の一步なんではないでしょうか？コロナ禍でなかなか前に進めない状況ですが、この時期だからこそ今のうちにもう少し内容を詰めたほうがいいのではないのでしょうか。年齢別コースとか、アウトドアコース、アドベンチャーコース、レトロ探求コース、森林浴コースなど豊かな自然に恵まれた青梅を標榜していくのならこのくらいの設定は必要だと思います。

青梅駅周辺の中途半端な昭和レトロの街並みをもっと徹底的に整備するべきだと思います。よく旅行に行って他県の街並みをたくさん見てきましたが、普通のきれいな街並みは清々しさを感じさせてくれますが、ここはただのさびれた田舎町にしか見えません。持続させるなら街づくりのコンセプトをもっと明確にして作り直すべきでしょう。

また、コロナ禍で衰退気味の産業を活性化させる目標もあるのでしょうから、そのような店舗や企業のサービス内容の提示やそれを発信する情報発信プログラムも同時進行でアップすることも大切だと思います。

#### ●まちづくりの基本方向

第5次・第6次のスローガンとは多少言い回しが違うだけでほぼ変わりが無いように感じます。どの項目が実行できてどの項目が停滞しているのか、またどの項目が頓挫したのか、その原因は何か？そのあたりがよく理解できません。勉強不足なのは申し訳ないですが、もっと分かりやすい資料があると助かるのですが・・・。

とにかく今回の基本構想の全ての項目に関して感じることは、青梅市だけに特化した内容ではなく、どこの町でも考える項目なので目新しさはありません。しかしそれが悪いと言っているわけではなく、毎回同じようなスローガンをいくつも並べる必要は無いと思うので、この項目は必ず達成するんだ！というような項目を二つか三つに要約してインパクトのある文言にし、市民の方が「青梅ならでは」と納得してもらえる標語にしたほうが良いと思います。

それには私のようなボキャブラリーの乏しい人間が考えるより、プロのコピーライターに依頼したほうが良いと思います。私たち市民の手作りの政策では限界があるので、多少は外部の専門家の

方から支援を受けることになっているのですが、線引きを明確にして提示して頂ければと思います。

◎今回頂いたいくつかの資料を拝見して感じたことは、青梅市では産業やら人口やら医療関係者などがほぼ右肩下がりで衰退気味、逆に公共施設などの保守費用や高齢者、医療・介護系の対応を必要としている方の数が右肩上がりとなっており財政圧迫であり良い状況とは思えません。

また、青梅市民の方々のアンケート結果を見ても、高齢者の回答率が最も多く若い方たちからの回答は少数ですね。高齢者については郷土愛から・・・といえるかどうかわかりませんが、若い世代は目先のことが優先で自分の足元はあまり気にならないようです。また、まちづくりへの関心も低く、どうしてほしいかという希望も高齢者向けのものが多いと思われます。コロナ禍の影響ももちろんあるのですが、国全体がこのような状況になっており、青梅市だけの問題とは思えません。

ニュース番組を見ていると、そのような状況を打開すべく様々な企業が知恵を絞って新しい取り組みをしています。帝国ホテルがキッチンカーを出店するとか、椿山荘が雲海を造ってオーロラが見えるイベントを行ったとか、徳島県で限界集落再生のため間引きされた廃材を利用して「未来コンビニ」を創ったとか、東京町田市や足立区のリノベ団地構想など取り上げればキリがないくらい様々なプロジェクトが進行しています。

青梅市でこのような取り組みをやってくれというわけではありませんが、将来のビジョンを作成するにあたってこのような発想をベースに考えていく方が現実的ではないかと思います。

#### 【委員】

意見まとめのまえに・・・

先日の全4回の勉強会を経て、地域の方の意見に触れて分かった事、解像度が上がったことは、主に以下の点でした。

- (1) 青梅市の特徴としての共通認識～地域ごとに特色が異なる事>それを反映した施策へ、行政と民間の役割分担の課題 小規模多機能自治の視点（市民参画）
- (2) 市民の声が届く機会・システムが欲しい>機会創出から計画立案、施策へ  
市民ミーティング課のような協働推進への道筋
- (3) 地政学や他市町村から見た観光や自治の視点  
そして、私の思っている視点を加えて、意見をまとめさせていただきました。
- (4) 文化の捉え方の視点>「文化的に生きる権利」文化条例の策定へ

意見まとめ

- (1) 地域ごとに特色が異なる事>それを反映した施策へ、行政と民間の役割分担の課題  
意見を聞く会では、青梅市は地域ごとに歴史や魅力が異なり、住人、文化の構成も様々。  
青梅市の風土を活かした魅力的なまちづくりの創出は地域ごとに異なる。

～小規模多機能自治の視点 から～

小規模多機能自治とは、小規模ながらも、様々な機能をもった、住民自治の仕組み。  
学校区域、分野横断し、住民の参画・協働  
全国に拡大している

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000459163.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000459163.pdf)

地域の特性を活かし将来を見据えた産業や人材育成の振興につながる

>地域らしさを活かした観光事業の推進（青梅の地政学 参照）

>地域の文化振興とにぎわいの創出

### （２）民間と共に長期で協働していく行政のあり方の視点 市民参画

意見交換会にて、「ぷらっとフォームなど市民の声を聞く場はあるが、機能していないのでは」という意見もあった。

第6次長期計画にある通り、ぷらっとフォームが機能すれば市民参画の機械創出にもつながり、まちづくりに参加する市民も増加が見込める。が、意見をまとめ、さらに、市役所で持続した施策へつなげる「市民ミーティング課」を設立し、協働推進計画の策定、市民へのフィードバックなど、責任を持つ課を立ち上げてほしい。

語り合いやすいテーマを持って、多様な意見を聞く会。青梅の未来をデザインする

テーマ例>アート・まちの景観・昭和レトロ・デザイン・子育て

>地域住民活動の支援と地域人材の育成

>NPO等の活動と連携・支援

参考サイト 市民が参加しやすい加古川市のプロジェクト

<https://kakogawa.diycities.jp/>

### （３）地政学や他市町村から見た観光の視点

意見交換会で「資源として良いものがあるのに活かしきれていない印象がある」

また、発信の重要さ「市の職員はデザインの専門家にはなれない。もっと民間に委託するべき」といった意見もあった。

青梅らしさ × 地域資源 × デザイン を進める会議を持って欲しい。

参考資料 青梅市地政学的分析.pdf

### （４）文化の捉え方の視点>文化条例の策定へ

文化の考え方～「文化的に生きる権利『文化＝人権』の視点

第6次長期計画の第4章 文化。交流活動がいきづくまち の「現状と課題」最下部に書かれている下記の部分をもっと具体的に分量を増やし、さらに追加して欲しい。

～より多くの人々が本市の歴史や文化などにふれあえる文化芸術活動の発表の場や機会を増やしていく必要があります。～

↓その理由

文化は「余暇」という捉え方はもう古い！過去のもので  
人間として「文化的に生きる権利」が危うくなっています。

すでに 子どもの貧困は7人に1人→5人に1人になりました。青梅市人口0～15歳の人口に  
当てはめると、13,276人のうち2655人は貧困という事実。

（戦後、昭和）物の豊かさ→（平成）心の豊かさ→今は・・・心どころではなくなっている！  
今後、経済格差はますます拡大傾向。

人権に関わる問題は、世界の遠い国のことではなく、いまここで起こっています。

子どもたちの様々なチャンスの創出へ、文化環境や制度の整備から必要です。

『人権・平和』にかかってくるのが、「文化」なのです。

文化条例の策定に向けて舵を切り、人権や平和への「文化的に生きる権利」に向けて、長期にわた  
る計画へ取り掛かるべきでは。

具体的には >文化条例の策定、文化芸術活動の支援、地域と連携、協働する学校づくりの推進

資料 骨子（案）のまちづくりの基本方向への意見

健全な行政経営のまち>

保健・医療が充実したまち>健康長寿と支え合いのまち

安全で快適に住み続けられるまち>災害に強く安全に暮らせるまち

循環と挑戦のまち>

遊び・学び・育むまち>遊び・学び・人を育むまち

活気にあふれたにぎわいのあるまち> 活気にあふれた魅力あるまち

ささえあい共創するまち>共につながる支えあいのまち

## 【委員】

○「福祉が充実したまち」について

これまで意見が少なかった「福祉が充実したまち」について、前回の審議会で時間があれば発言させ  
ていただきたいと存じつつ、できませんでした。そこで今回は、福祉の充実に絞って意見を述べます。

まず、資料5に関してですが、まちの将来像に「みんなが」とあるのが、貧困、不平等をなくす  
というSDGsのゴールとかみ合っていて良いです。福祉の充実は、基本理念の「みんなが主役で輝  
ける」や、まちづくりの基本方向の「ささえあい」という言葉に込められているという理解でよい  
でしょうか。もしそうであれば案のままでも良いのかもしれませんが、まちづくりの基本方向の「保  
健・医療が充実したまち」を「保健・医療・福祉が充実したまち」にするほうが、福祉の充実の打  
ち出しがよりはっきりします。

次に、資料1についてです。市民アンケート調査の（7）施策の満足度・重要度（p.10）におい  
て、高齢者福祉、障害者福祉、国保・介護保険は重要度が高めであるにもかかわらず満足度は高く



ありません。ひとり親福祉や生活保護も、重要度も高くないですが、満足度は高くありません。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化 (p.6) を見ると、自分自身や家族の収入が減ったと回答した割合が 26.5%、自分自身や家族の支出が増えたと回答した割合が 22.1 となっており、いずれも約 5 人に 1 人の家計の状況が悪化したことを示しています。生活保護が必要な市民が増えていることが推測されますが、まだまだ日本には生活保護に対するスティグマ(恥・不名誉だという烙印を押すこと)が根強くあるため、必要であるのに申請できない人が多い現状があります。最近では昨年 12 月に八王子市のケースワーカーが受給者に暴言を繰り返したことが明らかになり、同様のことは以前より報道されてきましたが、役所の側にも偏見があり、一人のケースワーカーの受け持ち人数が多すぎることもあって、申請があってもなかなか受理しないという問題もまた指摘されてきています。

(6) 青梅市の現在と 10 年後のイメージのところ (p.7) で、10 年後に望むイメージを見ると、「保健、医療、福祉が整ったまち」と回答した割合が最も高くなっています (49.7%)。年齢別に見ても 29 歳と 30~39 歳という若い世代においても、二番目に高くなっています。資料 3 では、医療・福祉の従業者数が減少し (p.5) と、福祉・医療ニーズが高まる (p.9) 未来が予測されていますが、そうした未来を若い世代も意識しているのかもしれませんが。

第 5 次にも第 6 次にも「福祉」という言葉がまちづくりの基本方向に入っていました。第 7 次でもなくさないほうがよいのではないのでしょうか。

#### ○資料 2 について

生徒が司会や挨拶も担当するというのが、主権者教育となっていて良いです。生徒がアンケートに「時間がもっと欲しかった」と書いていますが、学校関係者のアンケートの回答からは学校が多忙化している様子が伝わってくるので、今後は大人側の挨拶の時間を減らしてでも生徒が話す時間を長くしたほうがよいように思います。

#### 【委員】

##### ○ 資料 5

###### ・まちの将来像について

「身近に美しい山と渓谷がある」のと「東京に暮らす」ことを両立できるのは、日本の中でも青梅だけです。短い表現の中ではあれもこれもと欲張らずに、誰もが認めるその一点に絞って訴えるのが効果的と考えます。

美しい山と渓谷に抱かれつつ、東京に暮らせるまち

###### ・基本理念について

「市民のニーズ (保健・医療・福祉、美しい山や渓谷、高齢者が元気、買い物が便利、地震や災害に強い)」に「市長の思い」を合わせ、焦点を定めて表現すべきです。また、集積度が東京都 1 位、付加価値額も全国 10 位の電子デバイス・部品産業を軸とした「経済の好循環」も加えるべきです。

###### ・まちづくりの基本方向について

基本理念をより具体化した表現にすべきです。また、「多様性」「文化」「郷土愛」「子育て」「教育」など、基本理念で表現しきれなかった重要な要件はここで表現すべきです。さらに横断的テーマと

しては、「デジタル化」「脱炭素化」「持続可能化」を据えるべきです。

【委員】

全体的には現時点で「特に修正なし」でお願いしたいところですが、キャッチコピーについては、コピーとしてはやや長過ぎて焦点がぼらけるような気がしました。他の委員の皆様のご意見が素晴らしいので私などが申し上げられることではないのですが、例えば

「大自然に抱かれ 東京に暮らす おうめ（青梅）」

「大自然に抱かれた 東京の街 おうめ（青梅）」

などはいかがでしょうか。

【委員】

○資料5について

全体として3回の議論がよく反映されていると思います。以下、補足と追加修正提案を述べさせていただきます。

・まちの将来像について

「大自然」（そのもの、特に多摩川の偉大さと御岳山・武蔵御嶽神社の象徴性）

「みんな」（多様な人びと、生きとし生けるもの）

「健やか」（健康と福祉）

「笑顔」（幸せ、ウェルビーイング、充足）

ということで委員の願いは込められているので、補足説明には工夫が要るが表現としてはこのままでよいと思う。

一方で「東京なのに」は唐突感がある。青梅は東京都の中でも、西は奥多摩、東は都心、と両ウイングがほぼ等時間（公共交通機関で1時間）で結ばれた真ん中に位置しており、北と南にウイングを伸ばせば、山と海にも車で1時間で到達できるという強みは近隣市町村より優位といえる。むしろ、青梅市内を縦走する多摩川の上流から下流に向けて、取水や扇状地など「東京」を形成してきた地政学的な特徴を表現できないだろうか。渓谷美に留まらない重要な文明や文化を担ってきた青梅の特性をもっと自負をもって表現してもよい。例えば「東京を支える」は言い過ぎか？地震などの自然災害で立川以東の物流途絶や家屋倒壊などの甚大な被害などの有事においても、防災拠点やサバイバル拠点になりうる地盤や資源が備わっているのが青梅だと思う。

・基本理念について

「多様性を認め合い、みんなが主役で輝けるまち」 多様性には国際性も含めてほしい

「明るい未来を育む、文化と創造のまち」 デジタルよりはスマートという概念で

「豊かな自然と都市機能が調和した持続可能なまち」 自律分散型をイメージ（小学校区）

・まちづくりの基本方向について

基本方向はよいと思いますが、横軸の共通視点については、文言修正をお願いしたい。

「デジタル化」→「スマート化」（スマートはより広い概念、人間的にはデジタルもアナログも）

「SDGs」→世界の共通言語として採用するのはよいと思うが、6次長期計画では足りないゴールが多々あったので、7次ではチェックリストとして用いてすべてを満たしてほしい。むしろ、SDGsの批判も受け入れてこれを超えるゴールを編み出すべきではないか。

「脱炭素」→曖昧すぎるし、原子力や太陽光利用の方向には向かってほしくない。むしろ「省エネルギー」(のための生活基盤やエネルギー利用効率)を目指してほしい。議論が必要。

「情報発信」→情報は発信するだけでなく、生み出し、共有するもの。「情報の資源化」では？  
○資料1について

回収率：市民アンケートの回収率は行政調査として予想よりは高かったが、できれば50%は超えてほしかった。アンケート回収率の低さと投票率の低さには相関があるのではないか。転出者が低いことも予想できたが、事業者が極端に少ないのは調査方法に問題があったのでは？商工会議所などを通じた調査やヒアリングで補完すべきではないだろうか。

年齢構成：若い世代の回答が少なく高齢者に偏りすぎ、調査方法を改善できないか。これからでもヒアリングやタウンミーティングなどで若い世代の声を反映させるべきではないか。

回答者属性の影響もあるが、通勤が市内近隣に限られ無職も多いことは地域から出ない方々が多いことの表れか。

認知度や関心：「長期計画」と「市政・まちづくり」が直結していることを知っていただきたい。

市政参画：参画の機会や方法を増やすべき。チャンネルの増加、市民委員の増数など。

10年後のイメージ：文言の掘り下げと具体化が必要。極端な低率の項目は回答者特性も影響している。男女別の優先順位の違いは議論の余地があると同時に、施策化でカバー。

○資料2について

「(未来の)青梅人」である中学生たちの意見は非常に具体的で、すぐにでも施策化が可能なメニューが出されている。ぜひ審議会と平行に「子ども審議会」を常時開設していただきたい。アンケートにも述べられていたが、他校との交流が有意義だったように、子供たちはさまざまなバリアやバウンダリーを「越境する」存在である。このような特性をもっと引き出して未来を作ってほしい。次のステップとして、子供たちにタブレットを持たせて、大人からのインタビューや取材など、動画に収めた情報を共有して発信するというように、今のギガスクール構想にもかなった方法での「学習」「教育」ができるので、進めていただきたい。

○資料3について

予測モデルについて教えていただきたい。

産業従事者については、唯一希望が見えるのが「農業」であるが、実際に耕作放棄地を開墾して新たに就農している若い世代が増えている。青梅ブランドとして育成し市場開拓するとともに地産地消による食糧政策にも位置づけ、自給率を高めていただきたい。

福祉・医療従事者の増加は介護受給者の増加に対応した従事者増と思われるが、未来の青梅では介護受給者や認知症患者数を予測より減らすための「予防医療の投下」による「政策的な介入」

を行えるような政策転換をしていただきたい。青梅の自然を満喫できる「元気な高齢者」は少なく、高齢者施設の中でしか暮らせない方が多い現実を変えていただきたい。

教育・保育の未来については、少子化の傾向を反転させるような育児移住や教育移住も視野に入れた子供の成育環境への政策誘導が必要。医療費も教育費も18歳まで無料化するぐらいの抜本的な改革とともに、高等教育機関の再誘致による教育環境の向上が必要。

○資料4について

全体を通じて、マイノリティ（数が少ない、という意味で）視点が乏しい。例えば、障がいを持った方、LGBTQの方、外国からいらした方、必要な医療や福祉サービスに届かない方、などなど。全体をまとめながら、その視点を持ち直して、眺め渡す作業が必要と思います。

【委員】

○資料5

まちの将来像、基本理念、まちづくりの基本方向について、事務局提案資料に修正意見はありません。

【委員】

○資料5

・まちの将来像について

提案されている「まちの将来像」についての意見と「提案」

- ・「東京なのに」と遠慮しないで、堂々と東京をアピールする。
- ・東京の山と川、きれいな空気や空の青さを備えた「大自然」をイメージさせたい。現在もっともイメージしている「自然の豊かさ」が10年後に著しく低下していることを踏まえて、積極的な取り組みを図るイメージをアピールしたい
- ・住民だけでなく観光客や働く人を呼込むのであれば、「暮らす」と限定しない。
- ・生活を含めて「楽しむ」というポジティブ表現に。（「基本姿勢」に符号）
- ・「健やか」を子どもも高齢者もわかりやすい言葉にする
- ・青梅の将来像は、と問われてできる答えられる文章の長さでシンプルにしたい

提案：「東京の大自然を元気で笑顔で楽しむまち『青梅』」

・基本理念について

① 「多様性を認め合い・・・」について

⇒「住民の基本姿勢」、「人間関係形成」等としてとらえると以下のような視点や文言もあってもよいかと考える。

- ・協働（ともに支え、創るなど）、連携・コミュニティー（地域でつながる、市民と行政がつながる ※中学生の意見にもある）、個別最適化（誰もが大切にされる）

② 「明るい未来・・・」

⇒「地域社会の有り様」として捉えると以下のような視点も必要かと考える。

- ・成長と発展（新たな未来、進化するまち、仕事と生活を豊かに）、教育（人と学びを育む）、「創造」のイメージがわかりにくい（生活と文化の創造、豊かな地域（まち）の創造）

### ③ 「豊かな自然・」

⇒自然保全と社会機能のバランスと持続性・・・特にありません（よいと思います）

- ・まちづくりの基本方向について

⇒「まちづくりの基本方針」なので、「まちづくり」の内容をもう少しイメージしやすくする

- ・「ささえあい共創するまち」⇒「共創」の意味、内容？
- ・「循環と挑戦のまち」⇒「循環」の内容？「挑戦」の内容？
- ・「健全な行政経営のまち」⇒「行政経営」の主語は、「市民」「行政担当者」？

「各基本方向に共通する視点」について

※「SDGS」でくられてしまいますが、必要な視点は表記する方がよい。

- ・子育て、人づくり
- ・市民のまちづくりへの参画
- ・自然環境の保護

○資料について・・・特になし

### 【委員】

○資料5

- ・まちの将来像について

「東京なのに」大自然に抱かれて、みんなが健やかに笑顔で暮らせるまち青梅 について

表現としては漠然としていてよくわからないけれども、スローガンであるのだしこれで良いのではと思う（悪く言えば至って「普通」）。実際問題この言葉や文言がどうであれ気にするのはごく一部の市民や関係者だけでほとんどの市民はこういったスローガンよりも具体的な施策のほうに関心があると思う。

- ・基本理念について
- ・「多様性を認め合い、みんなが主役で輝けるまち」について  
「多様性」とは何か？世代・ジェンダーを超えた交流や支えあいはもちろんだと思うが、青梅の根深い問題である【古くからの住民・長老勢力】と【移住者・若者】との確執、それらをお互い尊重することも「多様性」の認め合いであると考えている。
- ・「明るい未来を育む、文化と創造のまち」について  
「文化」とは目に見える芸術文化だけのことではない。生活文化、歴史、民俗も歴とした文化であるので、それらを尊重・維持していくことが重要であると考えている。

- ・「豊かな自然と都市機能が調和した持続可能なまち」について

青梅市内のエリアごとの特性を尊重したうえで、自然を保護し活かしつつ、しかしながらインフラも整備し利便性を向上させる、というとても贅沢かつ難解な項目。これが実現したら非常に良い

と思う。「基本理念」なのでこのままの表現でも問題ないと思う。

・まちづくりの基本方向について

「循環と挑戦のまち」という表現が、いまいちピンとこない。

青梅市は何事にも保守的な印象なので「挑戦」という言葉を使うことの違和感。しかし「脱・保守」是非「挑戦」していただきたいので、これはこれで良いのかとも思う。

○資料1について

(6) 青梅市の現在と10年後のイメージの部分について

p.8-p.9は男女別・年代別の統計結果?であるとすれば、男性の1位はどの年代においても「美しい山や渓谷を有する自然豊かなまち」になっており、女性の結果と比較するとどちらかということ男性のほうが自然を重視、女性のほうが現実的な考え・イメージを持っているのだなと感じた。

○資料2について

とても良い意見が出ているので、言うことなし。この中学生たちが実は一番まともな意見を出しているのではと感じた。今後は中学生、高校生などの若い子供たちの意見をもっと市政に取り入れると良いと思った。

○資料3について

青梅市の未来予想 p.6 「卸売業・小売業従事者」「飲食・サービス業就業者」のグラフについて。今後、減少の原因は高齢化だけではなく、コロナ禍における宅配サービスやネットショッピング(ネットスーパー等)の台頭にあると思われる。消費者は対面でなくとも生活が維持でき楽しめる世の中になった。よってこの予想グラフよりも更に数値は低くなるのが考えられる。

これに関しては今後、青梅市としてはどのように対策をしていくのかが課題。もちろん対面なしの方法もメリットがあるので、それはそれで発展・サービス向上させるべきだとは思う。それと同時に、やはりリアルで商売をするということに付加価値をつけてこの業界を守らなければならないと考える。

○資料4について

●「買い物難民」対策…MaaSによるデマンド交通もちろん必要であるがそれに加えて2020年に実施された「青梅市テイクアウトサポート」のようなサービスも便利で重宝。

※青梅の飲食店のテイクアウトサービスを利用したいが、お店に行くことが出来ない市民の皆様にサポーターがお届けするサービス。青梅市内であれば無料でサービスを受けられる。

その理由としては、通常は青梅市内でも小曾木成木地区は飲食店の出前サービス範囲外であり(チラシは入ってくるにも関わらず)不便。移住に関連させて考えると、このような郊外に小さい子供のいるファミリー層が移住してくるとは考えにくい。小さい子供がいたり妊娠中の女性は郊外に住むとなると買い物面では不便さを感じることが多い。よって、青梅に移住を考える場合、駅周辺や新町などの便利な土地を選びがちである → 中心部と郊外の児童数の格差

私個人としては下記のように認識

デマンド交通…高齢者向け、一部観光客向け

テイクアウトサポート…小さい子供のいる家庭向け、高齢者向け、なかなか買い出しに出られない世帯向け

●「みんなが元気で健康なまち」のところ

健康のイメージを青梅マラソンだけに頼らず、ハイキングが気軽にできるまち、のようにしたほうが良いと思う。「ウォーキングしやすいまち」を掲げて歩道やウォーキングコースを整備する等。「青梅マラソン」は市民が誇りに感じてはいるが、すべての市民が気軽に参加できるものではない（応援は気軽にできるが）。マラソンは運動としてはハードルが高いようにも思える。身近なウォーキングを基準に「健康のまち」アピールをしてはどうだろうか。

●「自然と共生し環境にやさしいまち 森林、水辺環境、生活環境」のところ

獣害対策の徹底。アライグマ対策。小曾木エリアでは罠を自分たちで仕掛けて殺処分も自分たちでやっている。

.....

2 委員提出意見への事務局の対応

委員提出意見は、全委員に共有するとともに、事務局でとりまとめの上、修正した基本構想骨子案を第5回青梅市総合長期計画審議会へ提出する。